

Ohmi Net

No. 44
11・12月号

おらみネット



BIWA CHAN



Q1.楽しみたい、やってみたい文化・芸術は？

県民132人巻頭アンケート結果
みたい!ききたい!

- ヨーロッパに行って お城を見たい
- ミュージカルやオペラなど
- 韓国映画の鑑賞
- 舞台演劇を生で観てみたい。
- クラシックのコンサートに行ってみたい
- ヨーロッパの美術館巡り(主に、ルネッサンス)
- ヨン様のでてるドラマがみたい。
- 日本の古典文化(歌舞伎や能・琴や琵琶)
- 劇団四季を毎日、観劇したい!!!
- 歌劇が見たい(オペラ・オペレッタ問わず)
- ジャズをききに行きたい
- 日本の伝統芸能をいっぱい観たい。小劇場の舞台は今もよく観ているが、これからも沢山観たい。
- アメリカのエンターティナー的なものを沢山観たい

やってみたい!

- 陶芸など日常使えるものを作りたいです。
- 水泳、釣り、チェロをひく、小説を書く。
- 手話を勉強してみたいです。
- 着物を来て、茶道がしたいです
- ジャズピアノを始めてみたい。小さい頃から弾いてはいたけどジャズはジャンルが基礎から全く違うので勉強してみたい☆
- DJのターンテーブルを回してみたいです。
- フラダンスやベリーダンス、氣功やヨガなど。激しい運動より、ゆっくり長く出来るものの方が良いと思っています。
- 昔やってた社交ダンスをまたやりたいかも。
- ボイストレーニングをしてみたいです
- お茶です!落ち着き集中力を高めながら稽古したいです。
- パソコン資格取得
- フラワーアレンジメントをやってみたい
- ヴァイオリンをならってみたいです♪
- 囲碁を習いたい
- イラストを本格的に習ってみたいです。
- 書道
- 英会話ができるようになりたい
- レゲエを自分でしてみたい
- 韓国語をならってペ・ヨンジュンと話してみたい。
- アジア圏の言葉話せるようになりたい!

◀◀◀ 中面につづく

文化・芸術は? やってみたい! 楽しみたい!

県民

132人

巻頭アンケートVOL10



淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

第四回 市民に「身近なアート」の意味に気づく

エイブル アート ムーブメントと呼ぶ市民芸術運動がある。心身に障がいのある人が生み出すアートを、「エイブル・アート（可能性の芸術）」と名づけている。

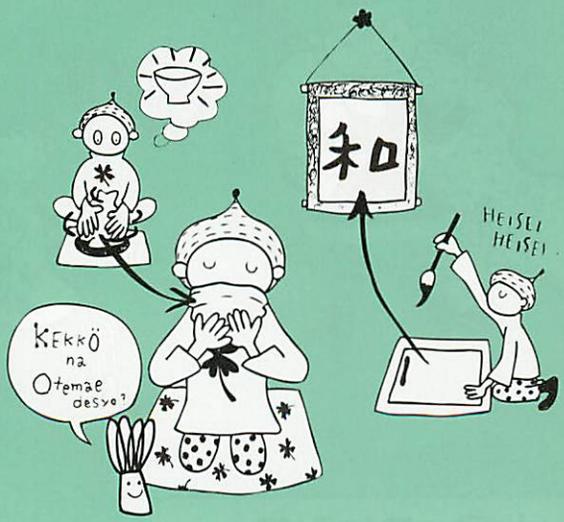
障がいのある人たちの心の不思議な動きが生み出すアートに、あふれる生のエネルギーを感じ、人間的な共感を呼び起こす。しかし一方で、障害のある人たちの精神的な活動に対する評価は低いため、その世界に触れる機会も少なく、社会でその役割を果たすことができないでいる。

芸術の分野や好みの違いはあるが、アートへの関心は誰もが持っている。ただ、その多くは、自らの生へのエネルギーに転換していくもの、あるいは人間性を回復（かいふく）させる力を持っていることに気づかないままである。私だけでなく、いまの社会で生きる難しさを感じている人が増えてきている。それゆえに、「魂の芸術」を通して人間性を回復させ、さらに芸術と社会の新しいコミュニティーを築いていこうとする運動に注視する。

前号で取り上げた「ボーダーレス・アートギャラリーNO-MA」は、障がいを持つ人の作品を特別視することなく、作品そのものが持つパワーを大切にしている。街なかの住宅にギャラリーを開いたのも、気軽に立ち寄って、作者と見る者との垣根を低くする意味もあるのだろう。さらには、市民の生活に近いところにアートがあることで市民の感性が培われるし、その質が高ければ感性も磨かれるといえよう。そういった市民の動きは、全国でも見られるようになった。

美術館やホールは、芸術品を保管したり、舞台を効果的に表す機能を備えているが、アートを求めている人は街なかにいる。ならば、美術館も、市民がアートを身近に感じとることができるよう、蓄積した知性や技を持って街なかへ出て行く時代になっているといえないか。

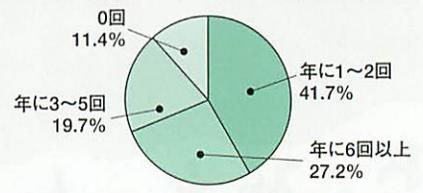
木村光二（事務局スタッフ）



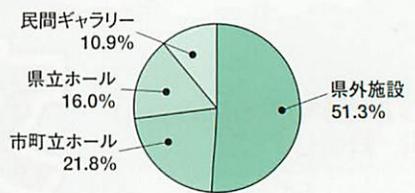
楽しみたい、やってみたい文化・芸術は？ 県民132人巻頭アンケート結果

▶▶▶ 表紙よりつづき

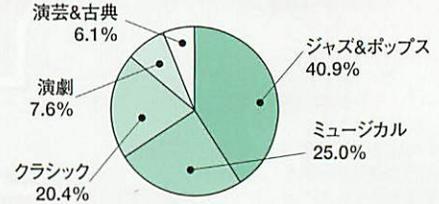
Q2.年に何回コンサートや演劇を観ますか？



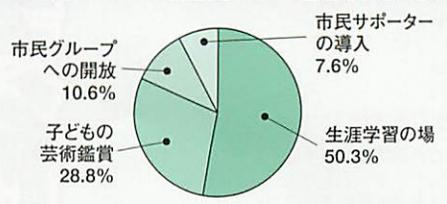
Q3.利用する主なホールは？



Q4.県内のホールでもっと力を入れてほしい催しは？



Q5.新しいホールの役割として、一番期待することは？



アンケート：携帯情報メール発信会社「j2メール」協力
 県民：132名（回答数）
 男性51名 女性67名 性別不明14名 20代：25名
 30代：55名 40代：23名 50代以上：13名 不明：16名

【1月号のアンケート】
 次回1月号は国際交流をテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくは「センターインフォメーション」をご覧ください。

CONTENTS

巻頭コラム●アンケートから考える

市民に「身近なアート」の意味に気づく ①

特集・Oh!Me!Eyes... ②

KIRARI★INTERVIEW... ⑤

私たち「きらり」輝いています!NPO

- ミュージカル「甲賀のさすけ」実行委員会(文化)
- 市民劇団O2劇場(文化)
- NPO法人ギャラリーシティ楽座(文化)

がんばれ!NPO 応援団... ⑦

- 【めとて★コラボ】
- 【おうちネット講座・心の通う情報誌づくり】
- 【ONLY ONE リレーエッセイ】
- 【スローグッズ探検隊】

行って来て見て情報BOX
 11月・12月..... ⑨

文化芸術活動と 市民活動の接点

芸術の秋。趣味あるいは生涯学習として、さまざまな文化活動や芸術活動にかかわっている人は多いでしょう。特定非営利活動促進法にも「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」が対象活動の一つとして掲げられています。でも、文化芸術活動はどちらかといえば趣味的な色彩が強く、市民活動とのつながりが今ひとつ見えてきません。今回の「おつみネット」では、文化芸術活動と市民活動の接点について、京都橘女子大学の井口貢さんにお話を伺いました。



●井口 貢さん

●文化芸術に関する活動というところからかといえは趣味性が強く、もう一つ市民活動としてのイメージをつかみにくいのですが。

井口 いわゆる市民活動や文化芸術活動の概念は広くて、なかなかそれぞれを定義づけるのは難しいのですが、イメージとして、ビジネスにおけるコミュニティビジネスの位置づけが参考になると思います。ビジネスは本来、営利を追求するものですが、その中においてコミュニティビジネスには、地域を元気にするという目的があります。文化芸術活動にも本当に趣味的な自己満足で終わるものもありますが、やはり活動を通して他者との交流が始まり、地域の人に元気を与え、いきがいを与え、参加を促すようなもの、よい意味で地域を巻き込んで

市民活動としての文化芸術活動は、活動を通して、他社との交流が始まり、地域の人に元気を与え、いきがいを与え、参加を促すようなもの

いくような活動を、市民活動としての文化芸術活動ととらえることが出来ると思います。

●そういった観点でみたとき、県内の状況はどうでしょうか。

井口 私自身が湖北地方に住んでいるので、どうしてもそこに目がいくのですが、たとえば狭い意味でのアートで例を挙げると、「アート・イン・ナガハマ」(AIN)の取り組みがあります。これはアートを通してまちづくりに貢献していこうというもので、ある意味アートとは関係のなさそうな職業を持った普通の市民の方々がこの活動をつくり上げてきました。パンフレットに「アート・イン・ナガハマ」はイベントではなく運動である」とありますが、この言葉が示すとおり、継続的な活動をするためにNPO法人も出来ました。まさに芸術活動が発展し展開した例だと思えます。AINの

文化芸術活動は、その活動を通して多くの人を心豊かにし、共感や支持を得ることができれば、市民活動として拡がっていく可能性があると思います。

取り組みは、これまで近寄りたいたいと思われていたアートを普通の市民のレベルに持って行き、アートを用地域コミュニティを元気にするという、まちづくり活動という点で評価できると思います。市民活動と文化芸術活動の接点を考える場合、この取り組みは参考になると思います。

●湖北では文化芸術関係の活動が盛んなのですか。

井口 湖北には、長浜、米原の曳山祭りをはじめとする伝統文化が多く残っています。また、アマチュアの劇団も結構あり、彼らは市民活動を意識してやっていると思います。このほか、もともとは農村における趣味的な娯楽活動で、やっている人たちも特に市民活動を意識してやっていたわけではないが、市民や地域が強く影響を受け、今や国際的に活動している「富田人形」のような事例もあります。湖北には、いわゆる庶民がつくり手や演じ手として守り、継承してきた文化が地域のエートスとしてあるように思います。

●今、各地で市町村合併が進んでいます。地域で継承されてきた文化は変わっていく

のでしょつか。

井口 文化の原点は「異質性」、違いを認めることだと思っています。市町村合併の中で、どのように地域文化を大切にし、連続性を守っていくか。そして、合併後の新たな地域文化をどのように構築していくかは重要です。合併がうまく進まない地域での理由として、住民の無意識の中に、地域文化の連続性に対する不安があり、それは「地域の文化を大切にしたい」という現れだった

文化の原点は「異質性」、 違いを認めること

のではないかと思います。ですから、合併後のまちづくりには、その地域固有の価値に根ざした「異質性」、すなわち他地域との差異を大切にする視点というものが重要です。

また合併により、結果として一つの自治体がいくつものホールを持つようになりま。この時に、各地域のホールの果たす役割を考えなければなりません。地域文化の連続性を保つという意味からも、各ホール

が特色を持った地域の文化芸術を掘り起こし、そしてその施設をうまく使いながら、その文化芸術を多くの人に支持されるようつないでいく。市民活動として文化芸術活動が認知される必要がある一方で、文化芸術活動を広げていくためにはこのような行政の施策が必要になると思います。

私は県の「湖国まるごとエコ・ミュージアムづくり」にも関わっているのですが、「エコ」という意味を狭い意味での「環境」だけでなく、まちづくりや生活、文化など、もっと広い意味での「環境」ととらえると、このように地域の個性にあふれる各地域のホールを琵琶湖をとりまくネットワークス状につなげていくことで、滋賀県における文化芸術活動を市民活動として広げていくことができれば、「面白い」と思います。



▲アートインナガハマの様子



PROFILE

井口 貢さん

京都橘女子大学文化政策学部助教授、滋賀県立大学環境科学部、人間文化学部兼任講師、おうみNPO活動基金審査委員。専攻は文化経済学、地域振興策、観光文化論。地域文化の固有性を生かしてまちづくりと観光振興の表裏一体となった地域活性化のあり方を研究。県内では「伊吹山を活かした観光再生委員会」（伊吹町）の座長を務めるなど、エコミュージアム型まちづくりの推進について具体的な活動を行っている。主な著書に、『文化経済学の視座と地域再創造の諸相』『観光文化の振興と地域社会』『観光文化論』など。米原町在住。

「市民活動だ」と声高に言っても周りが支持しなければそれは「オタク」的な活動になってしまいます。むしろ、例えば楽器を習い始めた人が少し上達して「誰かに聴いてもらいたい」というような、

井口 当事者が何らかの社会的な問題を意識してその解決のために行動を起こすという問題解決型の活動は、第三者からもわかりやすいし、また活動している本人自らも

まず自分が楽しんで、活動の結果として多くの人たちに心地よい幸せを与えることができれば立派な市民活動と言える

●文化芸術活動を市民活動としてとらえた場合、その活動にかかわっている人自身が市民活動と思っていないことがあると思いますが。

そう意識してやっている場合も多いと思います。そのことも重要かもしれません。ただ、「市民活動とはこうだ」と変に定義づけをし、敷居をむやみに高くしてしまうことで、却って市民活動の意味をゆがめてしまうおそれもあります。やはり大切なことは、まず自分が楽しみ、活動の結果として多くの人たちに心地よい幸せを与える。そのことは、本人が特に意識するしないにかかわらず立派な市民活動と言えるでしょう。「運動」と違って「活動」といった場合、より広く持続的に、市民に文化を享受できる可能性を開くことを意味すると思います。そういう意味で、市民活動と捉えることができると思います。自分たちがいくら「市民活動だ」と声高に言っても周りが支持しなければそれは「オタク」的な活動になってしまいます。むしろ、例えば楽器を習い始めた人が少し上達して「誰かに聴いてもらいたい」というような、



▲旧甲南町で行われた町民手作りのミュージカル「サブロー」

軽い気持ちで取り組む方がより質の高い活動につながる可能性があるかもしれません。

●文化芸術活動が市民活動として広がっていく可能性についてお聞かせ下さい。

井口 文化芸術は何も有名な芸術家だけのものではなく、誰もが気軽に始められるものです。誰でも参加でき、演じ手になり、主役になれる可能性を持っていること、ま



▲びわ町に受け継がれている、富田人形

たそんな機会を創ることが市民活動としての文化芸術活動の役割の一つだと思います。そしてその活動を通して多くの人を心豊かにし、共感や支持を得ることができれば、市民活動として拡がっていく可能性があると思います。このことは何も文化芸術活動だけでなく、市民活動全般に言えることかもしれませんね。

●ありがとうございました。

NPO きらり 輝いています！

●旧甲南町民が熱演を繰り広げた「サブロウ」の舞台



地域でボランティア活動を広めようと奮闘しているあなた、新たにNPO活動を立ち上げて琵琶湖のまわりを走りまわっている君、「淡海」というフィールドで、静かだけど、「どこか「きらり！」と輝いているボランティア活動や市民活動で活躍されているNPOの皆さんをご紹介します。

地域に眠っている宝物を掘り起こすことにより、地域の良さを見直してもらいたい

二〇〇〇年九月、旧甲南町「忍びの里プララ」の開館記念に、ミュージカル「サブロウ」が上演されました。町内外から公募した出演者の熱演に、客席は満席の盛況で大成功。この公演の仕掛け人が、プララの建設委員だった松島津由子さんです。松島さんは、地域に眠っている宝物を掘り起こして、多くの人に地域の良さを見直してもらおうと、手作りミュージカルの公演を企画。甲賀地方にゆかり

の深い甲賀三郎伝説を題材とした「ミュージカル「サブロウ」実行委員会」を立ち上げました。公演終了後、実行委員会は解散しましたが、翌年以降も県や町の助成をとりながら、新たな実行委員会を組織し、「サブロウ」をテーマにミュージカルを続けてきました。実行委員会にはいつも新しい人たちが参加し、ミュージカルの活性化に役立つとともに、文化の輪も広がっています。ミュージカル上演

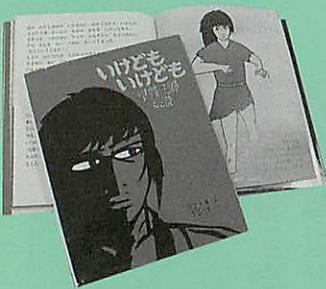
のほかに、「甲賀三郎」に関する絵本を出版したり、また、よみがえった地域の宝物を広く後世に伝えるため、多くの人の寄付を得て「甲賀三郎」記念モニュメントもつくったそうです。

今年、甲賀市の誕生を記念したミュージカルをしようとして、甲賀三郎と関係のある猿飛佐助を題材にすることに。こうしてミュージカル「甲賀のさすけ」実行委員会が立ち上がりました。十一月十三、十四日の公演を間近に控え、出演者の練習にも熱が入ります。

●代表の松島津由子さん



文化 ミュージカル「甲賀のさすけ」実行委員会



●「甲賀三郎伝説」の絵本も発行



●「忍びの里プララ」にある「甲賀三郎」のモニュメント

のほかに、「甲賀三郎」に関する絵本を出版したり、また、よみがえった地域の宝物を広く後世に伝えるた

松島さんは「これまでの活動で甲南文化の土壌ができました。当初の目標は達成したので、この公演を機会に他のサポート役に回りたいと思っています」とのことですが、これまで育んだミュージカルを甲賀市の中でもっと花が開くようにとの願いもあり、その心はまだ揺れているようです。

(編集ボランティア 阿部圭宏)

ミュージカル「甲賀のさすけ」実行委員会

代表●松島津由子
設立●2004年2月11日
会員●13名
連絡先●甲賀市甲南町耕心2丁目1035-236
TEL：0748-86-4158

文化 市民劇団O²劇場

演劇はまちづくりに似ている
市民劇団はまちを元気にします

一九九八年、大津市制百周年記念事業のひとつとして市民による野外劇「みずうみの劇場」が上演されました。これが好評だったため、そのメンバーが引き続き大津市民会館の事業である公演にも参加し、昨年ついに「市民劇団O²劇場」を設立。代表の森川さんは大津市百周年



●舞台公演風景

記念野外劇のオーデイションのチラシをふと手にして、応募してみたら合格、人生初の舞台デビューを果たしました。「役者は一度やったらやめられませんか！」舞台のお話では目の輝きが違います。

市民劇団O²劇場は今年六月旗揚げ公演の「PICK POCKET」を上演。九月に演劇ワークショップを主催。「普段は気づかないけど、ないと困る」酸素(O₂)のよう



●公演告知用チラシ

な存在を目指します。

演劇はまちづくりに似ている、とおっしゃる森川さん。「どちらも子どもと大人が対等にひとつのことを作り上げますし、見た人が元気になる、そしてまち全体を元気にします」学校の総合的学習の時間に演劇をとりいれ子どもたちの自己表現力を高める場づくりにも、ゆくゆくは関わりたいとのこと。今後は年一回の公演と、もつと多くの大津市民に参加してもらおうのが目標だそうです。

確かに森川さんのように、県外に勤務しているお父さん世代が地元で自己表現に目覚めれば、地域はそれこそ「劇的に」変わるに違いない。そう確信しました。
(編集ボランティア 幡 郁枝)



●代表の森川稔さん

市民劇団O²劇場

代表●森川 稔
設立●2003年5月
会員●14名
連絡先●
URL : <http://members.goo.ne.jp/home/o2gekijyou>
e-mail : o2gekijyou@mail.goo.ne.jp

文化 NPO法人ギャラリーシティ楽座

イベントから運動へ、芸術を通して
文化の薫るまちづくりをしていきたい

「アメリカのリッチモンドという町では、楽しい青空芸術市をしているそうだ」。このひと言が、長浜のまちづくりを考えていたグループにヒントを与えました。一九八七年、第一回のイベントを開催。以来十八

年、芸術版楽市楽座ともいえるべきアート・イン・ナガハマ(略称A IN)は人気を呼び、全国から集まる芸術家は絵画、陶芸、ガラス、染色、工芸の五つの分野で二百五十近くの出展数におよび、毎年秋の二日間、長浜の街は人の波で埋め尽くされます。

NPO法人ギャラリーシティ楽



●芸術家と交流できる「アート・イン・ナガハマ」

座が生まれたのは二年前。「年間通してのA IN事務局の仕事も増え、他の活動も考えるのが特定非営利活動法人を作って運営するのが一番良いのではと皆で決めました」と話す中居理事長。まちかどギャラリーや作品展、まちなかコンサートなど芸術家の育成支援や交流会の企画運営、商店街のお店でのA INの作品販売など、A IN以外の三百六十三日に

も知恵と工夫が必要です。A INを続ける中で、市民や商店主の芸術を見る眼が育ち、自信や活力が湧いてきました。人と人の交流が自由闊達な空気を持ち込み、商店街の活性化にもつながりました。

長浜を世界に発信できる魅力のあるまちにしたいという、まちづくりグループの想いは芸術活動とそれを支える多くの市民の手で着実に進行しているようです。
(編集ボランティア 大山純子)

●専務理事の北村さん(左)と理事長の中居さん(右)

特定非営利活動法人 ギャラリーシティ楽座

代表●中居純一郎
設立●2002年
会員●48人
連絡先●長浜市元浜町6-14
TEL : 0749-65-0393
URL : <http://www.biwa.ne.jp/ain/>

が必要になってきます。一つの例として、4つの編集内容で考えてみましょう。【4つの編集内容/1.社会の動き・情報 2.活動内容紹介(活動のニュース) 3.メッセージ(エッセイ) 4.インフォメーション(メンバー募集や今後の活動情報)】

[4] 誌面の具体的な内容 (B群)

上記の4つの編集内容で掲載することを頭において、誌面の具体的な内容を考えます。

例えば市民活動「山や自然を守る会」発行のコミュニティ誌「グリーンハート」(誌面タイトル)の具体的な誌面内容を決めます。【具体的な内容/①山は泣いている②グリーンハートニュース③街角Green Art ④MYグリーンハートエッセイ⑤INFORMATION】

[5] 取材の必要性

上記の具体的な内容について、取材が必要かどうかの判断をします。仕事などを持ちながら市民活動や広報を作るのですから、誌面作成の段取りを決め、効率よくコミュニティ誌を作ってください。

市民活動の多くは現代社会の流れと共に生まれています。コミュニティ誌で自分達の活動を提唱する場合、なぜ、この活動が大事であるのかという活動の背景を伝え、理解してもらう必要があります。そういった社会の動き・情報を伝える内容を「特集」的なページとして作ります。ストレートに活動主旨を述べるのではなく、社会問題やニュースになったこと、周囲の身近な話など切り口は様々です。その活動に興味のない人でも、読んでみようと思わせる誌面を作り心掛けてください。

※次号は「レイアウトの作成」についてです。

か。毎回、滋賀県一円から20余の店舗が集い、炊き立ての湖魚の佃煮や朝採りの減農薬野菜、無添加パンなど自慢の品々を並べます。安心・安全、そしてこだわりについて語



▲地酒の量り売りも魅力のひとつ

り合う「生産者の顔」を大切に、お客さんとの対面販売で「顔の見える関係」と「ふれあい交流の場」を創出しています。かつて、湖上交通の集散地として賑わった浜大津の復活を夢見て、オープンイベントでは湖北町から湖上タクシーで5時間かけて鮎や野菜を届けてもらったことも。朝市が開かれて丸一年経過した今、いつもの食材を目当てにするリピーターも多く平均して1200人~1500人が訪れています。目下の課題は少しでも採算ベースに近づけたいとのことで、地元商店街や観光行政とのタイアップも図りながら、周辺住民のみならず京阪神一円から2000人の集客を目標に、こだわり朝市のさらなる魅力づくりを目指しています。

【問】 浜大津朝市運営委員会 (NPO法人HCCグループ内)
TEL.077-533-5898 FAX.077-533-5910
【DATA】 第3日曜/朝8時~正午/浜大津駅前スカイサーカス

O N L Y O N E

リレーエッセイ

朗読グループ「草笛」
池本 千幸さん



「草笛」は視覚障害者のために書物、新聞、雑誌、情報誌他から記事を選び、録音しています。各自が記事を選んで録音したものを1本のテープに編集します。四季の挨拶や音楽をアレンジした後、校正、修正を加えて視覚障害者に月1回お届けしています。

現代は情報が氾濫していますが、視覚障害者にとってはまだまだ厳しい状況です。私達はそんな部分のお手伝いが少しでも出来たら…と思っています。多くの情報の中から日々の暮らしに役立つ内容を楽しく聞いて頂ける様に、各々切磋琢磨しています。活動を通して利用者みなさんの「いつも、ありがとう！」の声を聞けるのも嬉しい事です。決して自己満足で終わらず、お互いに問題意識を持ちながら、これからも続けていきたいと思えます。

一人でも多くの方のこころを癒す文芸作品や、生活に役立つ情報を、元気な明るい声でお届け出来たらこれに勝る幸せはないと思えます。

次回「紙上交流紙 わいわい広場」編集員の
研谷三枝さんです。

スローグッズ探検隊

NPO団体が開発した人や自然にやさしい商品をご紹介します!

大津中心市街地情報誌

Wotsu Walker (ウォーツウォーカー)



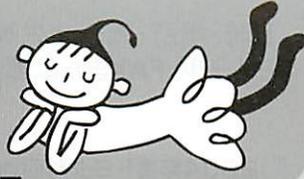
10月1日、立命館大学と滋賀県立大学の大学院生グループが、大津中心市街地を紹介する情報誌「Wotsu Walker (ウォーツウォーカー)」を創刊しました。編集に携わっているのは、岩橋芳郎さん、河原司さん、中嶋達郎さん、渡利真悟さんの4人。大津市内、京都、

大阪と住んでいる場所は違いますが、それぞれに大津の中心市街地に魅力を感じたといいます。しかし、大津市民がその良さに慣れ、つい見過ごしているのでは?という思いから、情報誌の製作を思い立ったとか。創刊号では大津の町家を集集。地元の人も見過ごしていたり、知らなかった情報を掘り起こして紹介しています。取材を通して、大津市在住のメンバーも改めて地元の良さに気付かされたというように、小さな誌面の中に「新しい刺激」が盛り込まれています。

この情報誌はA3三つ折りで、現在は大津市役所他で無料配布されています。来年3月までに3~4回発行する予定で、今後は大津の人や歴史、文化も紹介していくということです。

【問】 Wotsu Walker (ウォーツウォーカー) 編集部
URL : <http://www.wotsuwalker.jp/>
e-mail : info@wotsuwalker.jp

がんばれ!NPO 応援団



市民活動を元気にする情報コーナー

おらみネット講座 心の通う情報誌づくり

市民活動の情報発信のためのアドバイス。
★ご意見、ご質問を受け付けています。

【VOL.4 編集内容を決める】

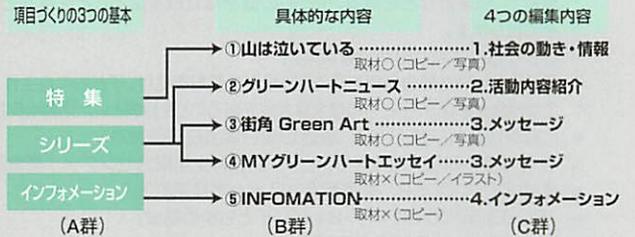
今回から「情報誌制作の作業手順」として、「編集内容を決める」「レイアウトの作成」「文章の作成」の3回テーマに分けて、情報誌作りの実務を説明します。まずは「編集内容を決める」です。

[1] 新聞タイトルを決定する。

タイトルは新聞の顔です。タイトルを読んだだけで何を訴える新聞なのか、何を表している新聞なのか、イメージを膨らませるようなタイトルにします。ストレートに市民活動団体のネーミングを情報誌のタイトルにする[「〇〇〇通信」「〇〇〇会報誌」「〇〇〇だより」「〇〇〇新聞」「〇〇〇広場」など]が一般的ですが、明るく、わくわくさせるイメージで、団体名とは異なるタイトルで読者の興味をひきつけることもおすすめします。例えば、活動団体名が「山や自然を守る会」の場合「グリーンハート」といった想像をふくらませるようなイメージのタイトルにします。

《一般広報誌タイトル例》

- ハートLIGHTしが**（関電滋賀支店社外報）…明るさと光とローカル性をタイトルに
- 夢〜舞**（滋賀県21世紀事業広報誌）…21世紀事業のスローガン「ムーブメントを起こそう！」からNPOが率先していく意味合いを漢字に置き換えたタイトル
- EひとEすと**（JAびわこ）…東近江一帯のJA情報誌からイーストを用い、人のネットワークを誌面にい人を登場させる誌面にしていくことをコンセプトにつけたタイトル



[2] 項目づくり3つの基本 (A群)

コミュニティ誌の場合、【項目づくり3つの基本●特集●シリーズ●インフォメーション】をおさえて下さい。ページ数の多い誌面はそのほとんどが、特集の内容が濃い、シリーズ多いかで構成されています。

[3] 4つの編集内容 (C群)

市民活動グループとしてコミュニティ誌を出す趣旨はどんなところにあるのか、それはその市民活動を広く提唱することです。これを読み手に分かりやすく、興味を誘うような内容で誌面に表すには、様々なバリエーションを持ってその誌面内容を作ること

めとてとコラボ

市民と行政、市民と企業などの、新しい市民協働(パートナーシップ)のカチを紹介しします。

「安全」「地産」「伝統」を目玉にした朝市で 生産者と消費者をつなぐ顔の見える関係づくり

…………… 浜大津こだわり朝市



▲代表の末富孝也さん



▲浜大津駅前歩道橋上
が朝市会場

▼地域通貨「ほっこり」も使えるよ(1ほっこり=100円)



▲津軽三味線の演奏も



▲暮らしくく広場では模型電車
運転あり

2001年に、県の「湖国21世紀記念事業」に参加した「水といのちの活動団体」のネットワークから生まれた「NPO夢〜舞めんと滋賀」で昨年初め“こだわり”をテーマにコミュニティビジネス研究会が発足。一般の市場では流通しにくい「安全」「地産」「伝統」をキーワードに、本当に良いモノを作っている地元生産者と安心・安全の食を求める消費者をつなげる新しい流通をつくらうと計画。行政や民間・大学・企業・NPOが協働で知恵を寄せ合っ

昨年10月「浜大津こだわり朝市」の誕生にこぎ着けました。当初、滋賀県コミュニティビジネス創出支援事業に採択され追い風に、今年3月に助成は終了しましたが、委員会や出店者の心意気で継続されるなか、活動を支える生産者と消費者からなる「こだわりを楽しむ会」を設立。瓦版が発行されたほか、エコツアーなども企画されています。

委員会のメンバーはNPOや行政、企業で働く人、地元商店街の店主、学校の先生等さまざまな人々で構成され、毎回朝市のオープンからクローズまで手伝っています。出店登録者数は約40の団体や個人でその登録基準は「委員会がこだわりがあると認めた者」で生産者に限っていると

1月・2月の掲示板 情報募集中!

日時・場所・問合せ先等を明記の上、12月8日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

平成17年度子どもゆめ基金助成金

- ☆子ども向け教材開発・普及活動助成募集案内
- 子どもたちの思考力、想像力、自主性などを育み、子どもの健全な育成を図ることを目的としたインターネット等で利用可能な子ども向け教材を開発・普及する活動を支援します。
- ☆子どもの読書活動助成募集案内
- 子どもの読書活動の振興を図る取り組みの裾野を拡げ、子どもの豊かな情操、思考力、想像力などを育み、子どもの健全な育成を図ることを目的とした活動を支援します。
- ☆子どもの体験活動助成募集案内
- 子どもの体験活動の振興を図る取り組みの裾野を拡げ、子どもの自主性、協調性、主体性などを育み、子どもの健全な育成を図ることを目的とした活動を支援します。
- 応募締切●12月5日(日)(郵送の場合は当日消印有効)
- 【問】独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 基金部助成課
住所:〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
TEL:03-5790-8117・8118(子どもゆめ基金)
フリーダイヤル:0120-579081
FAX:03-3467-7484
URL:<http://cs.kodomo.nyc.go.jp/yume/>
e-mail:yume@nyc.go.jp

2005年度WWF自然保護助成事業募集

- 対象者●日本国内で自然保護活動を行なっている団体・個人。
- 対象活動●WWFジャパンが取り組む6つの自然保護テーマ(応募分野を参照)に該当する調査研究・普及教育・保護活動など。特にWWFの現在行なわれているプロジェクトに関連し、協働する可能性や相乗効果の見込めるもの。それぞれの活動は具体的な成果が得られる可能性のあるもの。WWFジャパンが重要生態域と定める琵琶湖、南西諸島、黄海、有明・諫早地域での活動を重視します。政治的、宗教的、私営営利活動を含んだものは対象外とします。
- 応募分野●以下の6分野をテーマとします。
 - ◎森林生態系の保全 ◎淡水生態系の保全 ◎沿岸海洋生態系の保全
 - ◎生物多様性の保全 ◎エネルギーと気候変動 ◎有害科学物質の削減
- 募集期間:11月30日(火)必着
- 【問】WWFジャパン 自然保護室 自然保護事業担当(権田)
住所:〒105-0014 東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル6F
TEL:03-3769-1772 FAX 3769-1717
URL:<http://www.wwf.or.jp/index.htm>
e-mail:masayuki@wwf.or.jp

日本たばこ産業株式会社 「青少年育成に関するNPO助成事業」

- 現在の日本の社会は様々な課題を抱えており、その課題を解決していくのは社会を構成する「人」であるため、当社では人材育成、とりわけ次代の社会を担っていく「青少年の育成」に焦点をあてて、非営利法人が地域社会の核となつて行う事業で、「青少年の育成」に繋がる事業に助成を行ってまいります。
- ※本プログラムは、「福祉の増進」、「社会教育の推進」、「環境の保全」など分野を区切った助成ではなく、「青少年の育成」をテーマとした、分野を問わない助成となります。
- 募集内容●(1)応募資格:非営利法人で、かつ2004年9月30日時点で法人として1年以上の活動実績を有する法人。(2)対象事業:非営利法人が日本国内において、地域社会の核となつて実施する青少年育成に繋がる事業。例えば、青少年が地域社会へ参画する事業、青少年が様々な人々と交流または様々な体験をする機会を提供する事業、青少年を育成するための指導者・リーダー等の養成、あるいはこうした事業の基盤整備(体制、プログラム、場所等の整備、広報)など。
- ※育成の対象となる青少年は、小学生から高校生までを考えています。
- 応募手続●応募書類の入手方法:ホームページから、応募書類がダウンロードできます。郵送の場合、「応募書類郵送希望」と明記の上、団体名・代表者名・郵便番号・住所・電話番号を記載し、切手(200円分)を貼付した返信用封筒(角型2号)を同封して、応募締切日の2週間前までに事務局宛郵送して下さい。折り返し応募書類を送付致します。
- ※電話、FAXによる送付依頼はお断り致しますので、あらかじめご了承下さい。
- 締切日●11月30日(火)当日消印有効
- 応募先●日本たばこ産業株式会社 パブリックリレーション部
NPO助成事務局
住所:〒105-8422 東京都港区虎ノ門2-2-1JTビル
TEL:03-5572-4290 FAX:03-5572-1489

2004年度トヨタ財団地域社会プログラムの公募

- 基本テーマ●「地域社会の再構築を目指して-支え合うくらしのち-」
- 助成分野●
 - (1)活動助成
地域社会の再構築と活性化を目指し、地域に暮らす人々が主体となった、持続的な実践プロジェクトへの助成。あるいは、実践プロジェクトの地域内での相互連携の取り組みへの助成。
 - (2)成果普及助成
(A)地域社会の再構築と活性化を目指した活動の具体的な成果を、他の地域で類似な実践をしている人たちと比較、共有することを目的とした「活動記録の出版」。
 - (B)地域社会の再構築と活性化を目指した活動の経験からたくわえられたものを地域間で共有し、具体的な問題解決に資する、協働と連携を支える多彩な「広域ネットワーク」。
- 申し込み●応募用紙は公募期間中、当財団ホームページ(<http://www.toyotafound.or.jp/>)よりダウンロードできます。
- 応募期間●11月20日(土)当日消印有効。消印が21日(日)以降の応募については、理由の如何を問わず受理いたしません。
- 応募先●財団法人 トヨタ財団 地域社会プログラム係
住所:〒163-0437 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル37階 私書箱236号
TEL:03-3344-1701
URL:<http://www.toyotafound.or.jp/>

「連合・愛のカンパ」団体立ち上げ、 新規事業立ち上げのための準備金支援

- 対象団体●グループ:ホームヘルプ、移送、宅老(ミニデイ)、配食サービス、子育て支援等、主に生活支援・自立支援を目的として、平成15年12月1日以降、事業立ち上げ、団体設立をしたところ、あるいは、具体的に設立や新規サービス立ち上げ準備に入っている団体・グループ
- (1)市民互助型・草の根型の活動団体・グループに限る
- (2)新規事業立ち上げ、ないし団体立ち上げのために準備資金に限定(任意団体からNPO法人格を取得したという理由だけでは不可)
- 支援金額●一団体につき上限15万円まで(30団体までを目途とする)
- 用途の条件●運営費(電話代、会議費等の一般管理費)、事業費、いずれも可
- 提出書類●申込書(所定様式)・申請対象となる事業について簡単な収支予算書・団体事業全体についての収支予算書・簡単な事業計画書・会報など活動内容が具体的に示された団体紹介資料
- 締切り●11月30日(火)必着(郵送のこと)
- 【問】(財)さわやか福祉財団
「連合・愛のカンパ」立ち上げ支援プロジェクト
住所:〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8日本女子会館4F
TEL:03-5470-7751 FAX:03-5470-7755

滋賀会館シネマホール 11月の上映予定

- 【列車に乗った男】
11月10日(水)~12日(金) 10:00/18:00
- 【下妻物語】
11月10日(水)~12日(金) 13:35/19:45
11月13日(土)~14日(日) 16:55
- 【砂と霧の家】
11月13日(土)~14日(日) 10:00/14:25/18:55
11月17日(水)~19日(金) 12:15/14:40/17:05
11月20日(土)~21日(日) 19:15
11月23日(火)~28日(日) 時間未定
- 【69】
11月20日(土)~21日(日) 10:00
11月23日(火)~28日(日) 時間未定

◆リクエスト受付中!

- 上映してほしい作品名と住所、氏名、電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで滋海ネットワークセンターまでお送りください。
- ・各回入替制 ・料金は作品によって異なります
- ・毎週水曜日1,000円均一サービス
- ・毎週木・金曜日の初回&16:00以降の回1,200円均一サービス
- TEL:077-522-6191 滋賀会館シネマホール



行って来て見て 情報BOX 11・12月

ここに掲載できなかった情報はセンターホームページに掲載しています。http://www.biwa.ne.jp/ohmi-net

参加者募集

大津市南部障害児児童「ボレボレ」ボランティア講座

▶ 11月13日(土) 10:10~15:30(受付は9:40~)

障害のある子どもたちに「子ども達が主人公になって安心して遊べる場をつくり、友達と一緒に豊かな放課後・休日を通してやりたい」という願いから、草津養護学校に通う大津市内の小・中学生の知的及び肢体の障害児のための学童保育を毎週水曜(14:10~17:30)、土(または日)曜(9:30~15:30)に開所しています。ボランティアはしてみたいけれど、障害を持つ子どもと接するのは初めてで迷ってしまふ、自信がないという方の為のボランティア講座を開きます。是非参加してみてください。

場所●大津市障害者福祉センター(におの浜)
内容●実際に子どもたちと接して遊んで頂き、その後、簡単な講座を持ちます。動きやすい服装でお越し下さい。
【問】昼間/戸田TEL:077-549-3081
大橋TEL:077-543-7261
夜間/西川TEL:077-537-5782

※ボランティア講座には参加出来なけれどボランティアに参加してみたい!という方もご連絡下さい。

土山・秋の作業

▶ 11月20日(土)~23日(火)

内容●カモシカによる食害を防ぐため、防護柵を設置します
参加費●6,000円
【問】かもしかの会関西
TEL・FAX:075-502-4255

イベント

第3回近江中世城跡 琵琶湖一周のろし駅伝

▶ 11月23日(火) 10:00~12:00

場所●県内30の城跡でのろしが上がります。
※参加希望者は事務局までご連絡下さい。
【問】近江中世城跡琵琶湖一周のろし駅伝実行委員会事務局
FAX:0749-54-1533(酒井)
URL:http://www.biwa.ne.jp/mine-izu/

ミュージカル「甲賀のさすけ」

▶ 11月13日(土) 18:00開場 18:30開演

▶ 11月14日(日) 12:30開場 13:00開演

場所●甲賀市甲南町 忍の里プラザ
入場料●前売り1,000円(大人子ども共通)
当日大人1,500円
子ども1,300円
【問】ミュージカル「甲賀のさすけ」実行委員会
TEL・FAX:0748-86-4158

滋賀大学教育学部第56回学園祭「紫雅祭(しがさい)」

▶ 11月12日(金)13日(土)14日(日)

テーマ●「FEVER×FEVER」
場所●滋賀大学教育学部
JR琵琶湖線 石山駅下車 バス15分
内容●カラオケ大会、ビンゴ大会、フリーマーケット、ライブなど
その他子ども達対象企画盛り沢山!
【問】滋賀大学教育学部学生課
TEL:077-537-7708

びわ湖学生Festival2004

▶ 12月4日(土) 10:00~18:00

テーマ●「結晶一人と人とが創る無限の形」
場所●なぎさ公園市民プラザ(大津市由美浜)
内容●滋賀の13大学の学生が集まり、学生と地域との親交を深める。
・軽音楽系バンド演奏、吹奏楽演奏
・ダンスバトル、討論会
・クイズ大会、ビンゴゲーム
・模擬店
【問】滋賀県立大学交流センター
TEL:0749-28-8210 FAX:0749-28-8473

子ども文庫フェスタ2004 長谷川雅子さんを迎えて講演会「子どもたちと絵本」

▶ 11月19日(金)20日(土) 10:15~12:00/14:00~15:00

場所●大津市立図書館3Fホール
参加費●無料※託児あり(19日のみ10名程度)
【問】大津市文庫交流会
TEL:077-523-2104(岡村)
※託児の問い合わせ
TEL:0077-527-4386(宮野)
または077-525-7496(乾)

勉強会・交流会

子どもとおとなの子育て・子育て燃焼系 ~みんなで子育て研修会~

▶ 11月13日(土) 18:00開場 18:30開演

▶ 11月14日(日) 12:30開場 13:00開演

内容●子どもとおとなもみんなで、子どもが育つことについて感じ、考え、おしゃべりしてみませんか?
場所●希望が丘文化公園 青年の城
【問】子どもとおとなの子育て・子育て燃焼系事務局
住所:〒520-2144 大津市大倉1丁目17-11
TEL:077-543-0634
e-mail:junyah@wg8.so-net.ne.jp

「ともに学ぼう講座」

☆1回目「地域通貨を学びます」
日時●11月27日(土) 19:30~
☆2回目「地域通貨を見に行きます」
日時●12月11日(土) 13:30~
☆3回目:17年2月下旬予定
会場●自主活動センターきすな
参加費●1,000円
【問】水口21世紀まちづくり委員会
TEL・FAX:0748-62-3687

講演会「7カ国語で話そう!」

☆11月23日(火) 13:00~15:00

会場●ピアザ淡海

☆11月30日(火) 18:30~20:30

会場●大津市生涯学習センター

参加費●無料 当日参加可、託児(要予約)あり

【問】言語交流研究所 ヒップファミリークラブ

TEL:0120-557-761(月~金 9:00~18:00)

075-578-4475(本間)

第47回 不登校・登校拒否を考える会

▶ 11月23日(火) 13:00~17:00

場所●彦根勤労福祉会館(JR彦根駅から徒歩5分)

内容●記念講演 広木克行さん(神戸大学教授)

「不登校の子どもたちにどう向きあい、どう寄りそうか~21世紀を生きる君へ~」

参加費●資料代:500円

※事前申込み不要

【問】登校拒否・不登校問題滋賀県連絡会

TEL・FAX:077-525-5364

滋賀医科大学開学30周年記念「市民公開講座」

▶ 11月27日(土) 14:00~16:00

場所●草津市立市民交流プラザ(フェリエ南草津5F)

テーマ●「脳卒中の予防と治療の最前線」

~起こさない、起きたらどうする~

参加費●無料

申し込み方法●電話またはファックスで受付(11月19日締め切り)

【問】滋賀医科大学開学30周年記念事業特別企画「市民公開講座」係

TEL:077-548-2064 FAX:077-548-2799

大津NPOセンター設立記念事業「まちづくり・福祉増進事業」

▶ 12月23日(木) 13:30~16:30

テーマ●「7頭しかない盲導犬」(滋賀県の盲導犬の数です)

~盲導犬を支える市民ボランティアの役割~

場所●大津市生涯学習センターホール

参加費:無料

【問】(特)大津NPOセンター

TEL:090-1904-1104(森口)

助成金情報

平成17年用年賀葉書・年賀切手に付加される寄附金の配分団体公募

日本郵政公社は、平成17年用寄附金付お年玉付郵便葉書及び平成17年用寄附金付お年玉付年賀郵便切手に付加される寄附金の配分団体を公募します。公募の詳細につきましては郵政公社ホームページをご覧ください。
受付期間●11月30日(火)まで
提出先●申請事業を実施する施設又は団体本部への配達を受け持つ郵便局
【問】郵便事業総本部企画部(地域担当)
TEL:03-3504-4401
FAX:03-3592-7620

第13回「住まいとコミュニティづくり活動助成」

助成の対象●民間非営利団体(法人格等を問わない)が行う、住まいとコミュニティづくりに関する下記7項目の活動。

[1] 探検・点検型の活動 :住まいとコミュニティづくりのきっかけになるような住まいのまわりにあるいろいろな魅力や可能性を探し出す活動。

[2] 施設の提案・創造型の活動 :住宅地のなかで子どもの遊び場や、お年寄りがかつろげる場所など、生活を豊かにする施設を提案し、その実現をめざす活動。

[3] 住環境の保全・整備型の活動 :花や緑を増やしたり、歴史のある建物を残し活用したり、歩道や道路を整備したりすることなど、住まいの環境を良くしたり、コミュニティの活性化につながるような活動。

[4] 自然の保護・活用型の活動 :動物や植物の生態を守りながら、それを生かした住まいとコミュニティづくりを提案し、実現をめざす活動。

[5] 入居者参加の住まいづくりをめざした活動 :コーポラティブハウスなど入居希望者があらかじめ参加する集合住宅の建設をめざした全体構想の策定、推進方法の検討、参加者募集などについての活動。

[6] 集合住宅の建て替え、増改築、大規模修繕をめざした活動 :集合住宅の建て替え、増改築、大規模修繕をめざした居住者が中心となった調査、企画、計画についての活動。

[7] その他の活動 :住環境教育、防災まちづくり、福祉のまちづくりなどの居住環境の創造・維持・改善につながる活動

なお、助成対象となる活動には事業記録等の作成・出版、講演会・シンポジウムの開催等も含まれます。
公募期間 ●12月1日(水)まで(12月1日必着:11月30日までの消印有効)

応募先●財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団「活動助成係」
住所:〒107-0052 東京都港区赤坂1-5-11 新虎ノ門ビル5階
TEL:03-3586-4869
URL:http://www.hc-zaidan.or.jp/topmenu.html

麒麟福祉財団 平成17年度公募助成のご案内

公募テーマ●「地域における子育て支援ボランティア」
助成金額●総額2,000万円(1団体あたりの上限額30万円)

募集期間●11月30日(火)まで

募集方法●指定の公募助成申込書に記入・捺印の上幣財団事務局宛に郵送

【問】麒麟福祉財団

TEL:03-5540-3522

URL:http://www.kirin.co.jp/foundation



「思いを行動に移し、3年で成果を出す組織へ」

～市民活動団体・ボランティアグループリーダーのための組織づくり講座～

◇開催目的

「活動を始めたけれど、ちょっと行き詰まっている」「ボランティアに集まってもらったけれど、思いがうまく伝わらない」「最近ちょっとお疲れ気味」・・・あなたの団体はこれらでお悩みではありませんか？今回、淡海ネットワークセンターと滋賀県国際協会では、県内の国際交流・在住外国人支援団体をはじめとするさまざまな市民活動団体・ボランティアグループのリーダーまたはサブリーダーを対象に、自分たちの思いを組織内でどう共有化し、ちょっとお疲れ気味の活動に元気を与え、活動を次のステップに進めるために必要なファシリテーション技術やマネジメント能力の基礎を習得していただくことを目的に講座を開催します。

◇日時／12月7日（火）10：30～16：30
場所●草津市立まちづくりセンター309会議室
講師●田村太郎さん（IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」研究主幹、龍谷大学非常勤講師）
参加費●1,000円（同一グループ・団体から複数参加の場合は1人増えるごとに500円追加）
定員●30名（定員になり次第締め切り）

※参加ご希望の方は①お名前②連絡先③所属④講座で学びたいことをご記入の上、ファックスまたはメールでセンターまでお申し込み下さい。なお、複数でご参加される場合は、その方のお名前もご記入下さい。

◇実施主体／淡海ネットワークセンター、(財) 滋賀県国際協会
◇開催協力／滋賀県国際交流団体推進協議会、草津市コミュニティ事業団

市民活動・NPOのための 会計個別相談会

日常の仕訳、決算処理、計算書類の作成、税金の申告など会計・税務についての疑問に専門家が懇切丁寧にお答えします。日頃、悩んでいる会計担当者の皆さん！！相談してみませんか！

◇開催日（予約制）12月18日（土）
◇相談時間（一団体50分）
①13：00～13：50分（2団体）
②14：00～14：50分（2団体）
③15：00～15：50分（2団体）
④16：00～16：50分（2団体）
◇開催場所／県民交流センター202会議室（ピアザ淡海2F）
淡海ネットワークセンター会議室（ピアザ淡海2F）
◇相談料／2,000円（50分あたり）
◇申込み方法等／先着順に8団体募集します。
団体名、担当者のお名前、連絡先（住所、電話、

FAX、メールアドレス）、相談したい事項、希望時間帯を記入のうえ、淡海ネットワークセンターまでFAX、メール、郵便等でお申し込みください。

◇相談員／飯野 修さん
（飯野会計事務所 公認会計士・税理士）
川辺 恵子さん
（川辺恵子税理士事務所 税理士・ファイナンシャルプランナー）

編集後記

第一回のA I Nは豊公園で開催された。長浜の児玉環さんのブースは「おうみ裂き織り」の実演をされ、当時10才の長男が珍しくやってみたくて体験した。それからほどなく、息子が織った30段ほどの部分が上下に竹をつけた小さなタペストリーになって送られてきた。思いがけないことでうれしくて、息子はお礼状を書き、作品は今も部屋に飾られ、我が家と児玉さんとの交流もずっと続いている。A I Nはこんなエピソードをきくと星の数ほど生んでいるに違いない。
（編集ボランティア 大山）

今回初めて取材に同行させて頂き、そこで日々の活動に対する情熱や夢を語って頂きました。取材を通じて日々の地道な活動が人々の心を引き付け、やがて大きな実を結ぶと実感できました。今後県内各地の活動をできる限り皆さんの視点に立って伝えていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。
（編集ボランティア 小林）

森川さんは演劇経験ゼロからいきなり舞台にはまり人生が変わったそうです。通勤の電車が稽古場。10月初旬の舞台を控えて大変そうでしたが、公演当日だけでなく稽古の毎日輝いていらっしゃるといいます。子どものような表情が印象的でした。「あなたも演劇やりませんか？」と誘われたけどどっけなく断った私です。ごめんなさい！
（編集ボランティア・幡）

「淡海ネットワークセンターでインターンシップをさせていただいて」

岡田 翔子（同志社大学）

約2ヵ月の間淡海ネットワークセンターでお世話になりました。淡海ネットワークセンターの方々にはとても優しくしていただきました。実際に分かりやすくお話をいただき、気を遣って頂きました。とても和やかな雰囲気職場で皆さん仲良く協力して仕事をしていらっしゃいました。会議に出席させて頂いて実際のNPOの方達の考え方、立場を知ることができ、またお仕事と一緒に連れて行かせていただいて、さまざまな滋賀県のNPO団体に触れ合うこともできました。インターンシップを経てNPO団体に対するの見方も幅広くなりました。NPO団体に対しては、社会の中でそれぞれが問題意識を持って、このようなたくさんの方ができたのはすごいことだと思います。

NPO団体の一つ一つの性格は違ってくるけど、全てのNPOには何かを「守る」という考えが根底にあり、一生懸命前進しようとしているのが印象的でした。たくさんNPO団体を知って驚いた反面、何かに気付いた気がしました。また、会議に出席させて頂いて、行政とNPOとの立場の違いを生々しく感じることもできました。協働が必要になっているという現実の中で、立場の違いから出てくる現状を聞くという貴重な体験ができました。後半のインターンシップでは私自身身もぬ事情で忙しくなってしまう、全ての行事に出席できなかったのですが、皆さんのおかげでとても刺激を得ることができました。ありがとうございました。

1月号のアンケート

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで下記までご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。アンケート締切：1月末日

- Q1／あなたは国際交流に関心がありますか？
a.はい b.いいえ
- Q2／あなたの身近に在住外国人の方が住んでいますか？
a.いる b.いない
- Q3／どんな国際交流のボランティアをやりたいですか？
a.在住外国人の生活支援 b.日本語教室 c.ホームステイの受け入れ d.多文化交流 e.自然保護 f.その他
- Q4／国際交流のために一番必要なものは？
a.語学力 b.平和 c.NPO&NGOの活躍 d.資金援助 e.異文化理解 f.その他
- Q5／外国人ともっと仲良くするためにはどうすればいいと思いますか？



淡海ネットワークセンター

(財) 淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日（12/29～1/3を除く）
火～金曜日／9：00～19：00 土・日曜日、祝日／9：00～17：00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、滋賀県信用組合、郵便局（ボランティア貯金窓口）、公民館など



©無断転載を固くお断りします。

